2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月12日

上 場 会 社 名	ロート製薬株式会社		上場取引所　東
コ ー ド 番 号	4527	URL	https://www.rohto.co.jp/
代　　表　　者	（役職名）代表取締役社長	（氏名）	瀬 木　英 俊
問合せ先責任者	（役職名）取締役副社長 CFO	（氏名）	斉 藤　雅 也　（TEL）06-6758-8223
半期報告書提出予定日	2026年11月13日	配当支払開始予定日	2026年12月８日

決算補足説明資料作成の有無　　：有
決算説明会開催の有無　　：有　（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	179,006	9.0	20,953	8.5	21,845	△11.2	16,498	△6.5
2026年３月期中間期	164,257	18.1	19,317	8.6	24,609	32.4	17,652	36.6

（注）包括利益　2027年３月期中間期　23,678百万円（　46.4%）2026年３月期中間期　16,169百万円（　△16.4%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	73.08	71.39
2026年３月期中間期	78.12	76.32

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	501,021	334,796	62.9
2026年３月期	485,771	320,174	62.1

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　315,111百万円　　2026年３月期　301,446百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	21.00	―	25.00	46.00
2027年３月期	―	25.00			
2027年３月期(予想)			―	25.00	50.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　　：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	372,300	8.3	45,000	9.4	47,400	△1.2	35,200	2.8	156.50

（注）１．直近に公表されている業績予想からの修正の有無　　：無

２．当社は、2026年３月26日開催の取締役会決議に基づき、自己株式の取得を行いました。連結業績予想の「１株当たり当期純利益」については、当該自己株式の取得の影響を考慮しています。

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　　：　有

新規　　２社（社名）　マジック・コッド社 他１社　、除外　　―社（社名）―

（注）詳細は添付資料11ページ「２．中間連結財務諸表及び主な注記（４）中間連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：有

（注）詳細は添付資料11ページ「２．中間連結財務諸表及び主な注記（４）中間連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：無

④　修正再表示　　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	236,178,310株	2026年３月期	236,178,310株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	11,252,618株	2026年３月期	10,214,018株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	225,739,735株	2026年３月期中間期	225,964,371株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料４ページ「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）中間連結貸借対照表 …… 5
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 ……11
（継続企業の前提に関する注記） ……11
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） ……11
（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） ……11
（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更） ……11
（セグメント情報等） ……12

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。個人消費には持ち直しの動きがみられ、訪日外国人旅行者による消費も引き続き高い水準を維持しました。一方、物価上昇による家計負担の増加から、消費者の節約志向は依然として根強く、個人消費の回復には力強さを欠く状況が続きました。世界経済は、米国の関税・通商政策を巡る不確実性や中国経済の減速懸念に加え、中東情勢の緊迫化など地政学的リスクが継続しました。また、原油・原材料価格の変動や為替相場の動向、自然災害の影響なども懸念され、国内外の景気の先行きについては、依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社は2026年５月、新たに「Connect for Well-being & Longevity」を掲げ、ロンジェビティを推進し、実現する企業へと進化していくことを宣言しました。医薬品、スキンケア、食品、再生医療などの知見をつなぎ、創業以来培ってきた細胞科学を基盤として、人々がより長く、健やかに、若々しく生きられる社会の実現を目指し、その実現に向けて日々取り組んでおります。

その結果、売上高は、1,790億6百万円（前年同期比9.0％増）と増収となりました。国内では、サプリメントの「ロートＶ５」、「肌ラボ」や「ケアセラ」、「GYUTTO」などのスキンケアに加え、若者用目薬や高額目薬が好調に推移し、増収となりました。海外では、ユーヤンサン・インターナショナル社や中国をはじめ、アジアセグメントが好調に推移したことにより、増収となりました。

利益面では、増収効果に加え、国内で「肌ラボ」の価格改定や内製化率の向上により原価率が改善したことから、営業利益は209億5千3百万円（同8.5％増）の増益となりました。前期に発生した一過性の受取配当金の反動減により、経常利益は218億4千5百万円（同11.2％減）、親会社株主に帰属する中間純利益は、164億9千8百万円（同6.5％減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

（日本）

外部顧客への売上高は、860億7千万円（前年同期比3.0％増）と増収となりました。

サプリメントの「ロートＶ５」や「肌ラボ」が好調に推移いたしました。また、企画品が好調だった若者用目薬や高額目薬等も好調に推移いたしました。国内グループ会社におきましては、天藤製薬㈱やクオリテックファーマ㈱が増収に寄与しました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、増収効果に加え、原価率が改善したことにより、119億4千3百万円（同8.0％増）と増益となりました。

（アメリカ）

外部顧客への売上高は、103億4千4百万円（前年同期比2.3％増）と増収となりました。

米国で目薬の出荷減少の影響があったものの、ブラジルで「肌ラボ」が引き続き好調に推移しました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、米国で目薬の出荷減少の影響と原材料費や燃料費の高騰等により原価率が上昇したことに加え、販売費及び一般管理費が増加したことにより、4億3百万円の損失（前期のセグメント利益は4億2千8百万円）となりました。

（ヨーロッパ）

外部顧客への売上高は、133億5千1百万円（前年同期比15.7％増）と大幅な増収となりました。

ポーランドのダクス・コスメティクス社の「Hadalabo Tokyo」、「YOSKINE」が好調に推移しました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、ダクス・コスメティクス社における増収効果に加え、原価率が改善したことにより、7億1千7百万円（同218.5％増）と大幅な増益となりました。

（アジア）

外部顧客への売上高は、671億6千万円（前年同期比17.1%増）と大幅な増収となりました。

ユーヤンサン・インターナショナル社が好調に推移したことに加え、中国、ベトナムやマレーシアなどの東南アジアが引き続き好調に推移しました。商品別では「肌ラボ」、「アクネス」、目薬、フケ抑制シャンプーの「セルサン」等が増収に寄与いたしました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、増収効果により、80億2千5百万円（同12.4%増）と大幅な増益となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末における資産総額は5,010億2千1百万円となり、前連結会計年度末より152億5千万円増加いたしました。これは、投資有価証券が51億8千1百万円、原材料及び貯蔵品が29億6千1百万円、それぞれ増加した一方、電子記録債権が10億1千1百万円減少したこと等によるものであります。

負債総額は1,662億2千5百万円となり、前連結会計年度末より6億2千8百万円増加いたしました。これは、長期借入金が150億9千2百万円増加した一方、短期借入金が189億7千8百万円、流動負債のその他が18億8百万円、未払法人税等が4億3百万円、それぞれ減少したこと等によるものであります。

また、純資産につきましては3,347億9千6百万円となり、前連結会計年度末より146億2千1百万円増加いたしました。これは、利益剰余金が108億4千8百万円、為替換算調整勘定が43億1千万円、それぞれ増加した一方、自己株式の取得により29億9千9百万円減少したこと等によるものであります。

②連結キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ40億3千7百万円減少し、788億1千4百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において営業活動の結果得られた資金は、前年同期に比べ21億7千1百万円増加し202億4千8百万円となりました。これは、税金等調整前中間純利益が233億1百万円あり、キャッシュ・フローの増加要因である減価償却費が80億2千万円、仕入債務の増加額が24億2千1百万円あった一方、キャッシュ・フローの減少要因である、法人税等の支払額が73億2千6百万円、棚卸資産の増加額が35億4千1百万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において投資活動の結果使用した資金は、105億2千9百万円と前年同期に比べ40億6百万円増加しました。これは、前年同期は有形固定資産の取得による支出が52億3千4百万円、投資有価証券の取得による支出が16億7千万円あった一方、当中間連結会計期間は有形固定資産の取得による支出が65億5千1百万円、投資有価証券の取得による支出が39億1千2百万円あったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において財務活動の結果使用した資金は、155億4千9百万円と前年同期に比べ62億6千7百万円増加しました。これは、前年同期は配当金の支払額が45億1千9百万円、短期借入金の減少が14億7千1百万円あった一方、当中間連結会計期間は長期借入金の返済による支出が173億6千2百万円、配当金の支払額が56億4千9百万円あったこと等によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

中間連結会計期間の業績は、おおむね計画通りに推移しているため、2026年８月６日に公表いたしました通期の業績予想は変更しておりません。

※上記の予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	86,816	83,200
受取手形及び売掛金	52,684	52,987
電子記録債権	24,592	23,581
商品及び製品	38,134	39,596
仕掛品	5,278	5,739
原材料及び貯蔵品	22,265	25,227
その他	9,930	12,580
貸倒引当金	△429	△431
流動資産合計	239,274	242,483
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	34,255	34,455
その他（純額）	58,756	62,441
有形固定資産合計	93,011	96,896
無形固定資産		
商標権	40,152	40,143
のれん	34,242	34,766
その他	9,504	9,371
無形固定資産合計	83,899	84,280
投資その他の資産		
投資有価証券	55,904	61,086
退職給付に係る資産	3,046	4,718
その他	18,446	19,521
貸倒引当金	△7,899	△8,045
投資その他の資産合計	69,498	77,281
固定資産合計	246,409	258,458
繰延資産		
社債発行費	87	79
繰延資産合計	87	79
資産合計	485,771	501,021

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,937	24,233
電子記録債務	1,709	1,539
短期借入金	24,742	5,764
未払費用	22,715	22,345
未払法人税等	6,572	6,169
賞与引当金	4,089	4,248
役員賞与引当金	75	42
その他	36,507	34,698
流動負債合計	117,349	99,041
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	25,316	25,290
長期借入金	2,872	17,965
退職給付に係る負債	707	2,300
その他	19,349	21,627
固定負債合計	48,246	67,183
負債合計	165,596	166,225
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,504	6,504
利益剰余金	256,618	267,467
自己株式	△9,939	△12,939
株主資本合計	253,183	261,032
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,285	15,838
為替換算調整勘定	31,333	35,643
退職給付に係る調整累計額	2,643	2,596
その他の包括利益累計額合計	48,262	54,079
新株予約権	382	382
非支配株主持分	18,346	19,301
純資産合計	320,174	334,796
負債純資産合計	485,771	501,021

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
売上高	164,257	179,006
売上原価	73,074	79,444
売上総利益	91,183	99,562
販売費及び一般管理費	71,865	78,608
営業利益	19,317	20,953
営業外収益		
受取利息	488	697
受取配当金	4,125	818
持分法による投資利益	134	128
為替差益	723	－
その他	957	793
営業外収益合計	6,431	2,438
営業外費用		
支払利息	602	620
為替差損	－	431
貸倒引当金繰入額	189	145
その他	347	349
営業外費用合計	1,139	1,546
経常利益	24,609	21,845
特別利益		
投資有価証券売却益	4	1,456
特別利益合計	4	1,456
特別損失		
投資有価証券評価損	1,067	－
特別損失合計	1,067	－
税金等調整前中間純利益	23,546	23,301
法人税等	5,774	6,667
中間純利益	17,772	16,634
非支配株主に帰属する中間純利益	119	136
親会社株主に帰属する中間純利益	17,652	16,498

中間連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
中間純利益	17,772	16,634
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,649	1,553
為替換算調整勘定	△4,207	5,541
退職給付に係る調整額	△35	△46
持分法適用会社に対する持分相当額	△9	△4
その他の包括利益合計	△1,602	7,043
中間包括利益	16,169	23,678
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	16,433	22,314
非支配株主に係る中間包括利益	△264	1,363

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	23,546	23,301
減価償却費	7,071	8,020
のれん償却額	1,006	1,097
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△11	△28
賞与引当金の増減額（△は減少）	△128	142
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△45	△101
貸倒引当金繰入額	189	145
投資有価証券売却損益（△は益）	△4	△1,456
投資有価証券評価損益（△は益）	1,067	－
受取利息及び受取配当金	△4,614	△1,516
支払利息	602	620
持分法による投資損益（△は益）	△134	△128
売上債権の増減額（△は増加）	△2,388	1,910
棚卸資産の増減額（△は増加）	△2,244	△3,541
仕入債務の増減額（△は減少）	328	2,421
その他	△3,640	△4,189
小計	20,600	26,698
利息及び配当金の受取額	4,620	1,485
利息の支払額	△606	△653
法人税等の支払額	△6,538	△7,326
法人税等の還付額	0	44
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,076	20,248
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,226	△1,832
定期預金の払戻による収入	1,311	1,303
有形固定資産の取得による支出	△5,234	△6,551
有形固定資産の売却による収入	11	12
無形固定資産の取得による支出	△453	△830
投資有価証券の取得による支出	△1,670	△3,912
投資有価証券の売却及び償還による収入	836	2,206
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	－	△739
長期貸付けによる支出	△100	△82
長期貸付金の回収による収入	1	2
その他	0	△104
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,522	△10,529

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	△1,471	△2,227
長期借入れによる収入	43	15,207
長期借入金の返済による支出	△1,336	△17,362
自己株式の取得による支出	△0	△2,999
配当金の支払額	△4,519	△5,649
その他	△1,999	△2,517
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,282	△15,549
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,489	1,793
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	782	△4,037
現金及び現金同等物の期首残高	73,221	82,851
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	63	－
現金及び現金同等物の中間期末残高	74,066	78,814

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

当中間連結会計期間より、新たに株式を取得したことに伴い、マジック・コッド社他１社を連結の範囲に含めております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間(自　2025年４月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント　(注)１					その他(注)２	合計	調整額(注)３	中間連結損益計算書計上額(注)４
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
顧客との契約から生じる収益	83,559	10,107	11,538	57,348	162,553	1,703	164,257	－	164,257
(1) 外部顧客への売上高	83,559	10,107	11,538	57,348	162,553	1,703	164,257	－	164,257
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	2,392	758	87	2,999	6,238	43	6,281	△6,281	－
計	85,952	10,866	11,625	60,347	168,791	1,746	170,538	△6,281	164,257
セグメント利益	11,061	428	225	7,139	18,854	118	18,972	345	19,317

（注）　１　「アメリカ」の区分は米国、ブラジル等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、ポーランド、オーストリア等の現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、シンガポール、マレーシア、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。

２　「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。

３　セグメント利益の調整額345百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。

４　セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当中間連結会計期間(自　2026年４月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント　(注)１					その他(注)２	合計	調整額(注)３	中間連結損益計算書計上額(注)４
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
顧客との契約から生じる収益	86,070	10,344	13,351	67,160	176,927	2,078	179,006	－	179,006
(1) 外部顧客への売上高	86,070	10,344	13,351	67,160	176,927	2,078	179,006	－	179,006
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	2,259	876	200	2,053	5,390	4	5,394	△5,394	－
計	88,330	11,221	13,552	69,213	182,317	2,083	184,401	△5,394	179,006
セグメント利益又はセグメント損失(△)	11,943	△403	717	8,025	20,281	153	20,435	518	20,953

（注）　１　「アメリカ」の区分は米国、ブラジル等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、ポーランド、オーストリア等の現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、シンガポール、マレーシア、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。

２　「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。

３　セグメント利益の調整額518百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。

４　セグメント利益又はセグメント損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。